

授業科目	*看護マネジメント総論				実務家教員担当科目	○	
単位	1.	履修	必修	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	隅田 由加里						
授業概要	<p>質の高い看護を全ての患者に継続的に提供するためには組織で取り組む必要があります。そのためには全看護師が、組織の責務や目標を把握し協働的に活動しなくてはなりません。その基盤を構築するために必要となるのがマネジメント（看護管理）です。本授業では、看護マネジメントの基本である、マネジメントプロセスと活用資源、組織構造と組織化、サービスの質評価と改善、多職種連携やチーム医療に求められるスキル、看護専門職としてのキャリア開発、医療安全管理等の観点から看護マネジメントを学び、「看護専門職」としての理解を深めることを目的とします。</p> <p>担当者は、実務家教員として福岡県看護協会認定看護管理者教育課程「セカンドレベル」、また福岡県看護協会 医療安全管理者養成研修と感染管理者コースを修了し、長きにわたり看護管理者としてマネジメントを実践してきた経験をもつ。</p>						
授業形態	講義	授業方法	アクティブラーニング(グループワーク)と ICT(動画)を活用し授業を展開する。				
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	<p>質の高い医療・看護を実践するためのマネジメントの基本を修得し、看護専門職としての理解を深めることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護サービスマネジメントの概要（定義・意義・目的、看護サービスのマネジメントプロセスと資源、看護サービスを提供する組織と組織化、看護サービスの質評価）が説明できる。（DP1-2） 看護サービスマネジメントを実践するための資源のマネジメント（人材育成管理、モノの管理、カネの管理、時間の管理、情報の管理）の概要が説明できる。（DP1-2） 多職種連携やチーム医療に求められる協働のスキル、看護専門職としてのキャリア開発の概要が説明できる。（DP1-2） 医療安全管理の概要（医療安全管理体制、事故発生のメカニズム、医療安全対策、医療安全文化の醸成）が説明できる。（DP1-2） 看護マネジメントの学びと既習の知識を活用して、提示されたマネジメント課題を思考し、自身の考えが記述できる。（DP2-1） チーム医療に必要なリーダーシップ、メンバーシップの学びを通して、倫理に基づいた節度ある行動で授業に参加できる。（DP4-1） 						
理想的レベル	標準レベルに加え、自身の学びと考えを論理的に根拠を踏まえ記述できるとともに、「看護専門職」として必要な技能を模索し自己形成を深めることができる。						
評価方法・評価割合							
評価方法	評価割合（数値）				備考		
試験	65%						
小テスト							
レポート	30%				テーマと評価基準は授業内で説明します		
発表（口頭、プレゼンテーション）							
レポート外の提出物							

その他		05%		授業への参加姿勢							
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリン グ	NU11208J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
授業スケジュールを活用し授業テーマに該当するテキストや参考文献を読む。 授業での学びを整理しノートにまとめる。 授業で提示された課題に関して調べ学習等を行い自身の考えをまとめる。										4	
授業計画											
第1回	授業ガイダンス テーマ：看護マネジメントの概要 担当：隅田由加里 主な授業内容 ・身近な題材からマネジメントを体験しよう！ ・ヘルスケアに関わる社会の動向から考える看護マネジメントの必要性 ・看護マネジメントの定義・目的・意義 ・看護マネジメントの3つのレベル ・看護マネジメントのプロセス ・看護マネジメントにおける活用資源 ・サービスの特性とサービスの対象										
	テーマ：看護サービスのマネジメント①：組織構造と組織化の理解 担当：隅田由加里 主な授業内容 ・組織の構造と組織化 ・組織変革理論 ・コンフリクトマネジメント ・人・組織・地域との連携・協働（多職種連携・チーム医療）										
	テーマ：看護サービスのマネジメント②：時間（労務）の管理、情報の管理、モノの管理 担当：隅田由加里 主な授業内容 ・一貫性・継続性のある看護を実現するための看護提供システム ・緊急性と重要性から考える優先順位と決定と分業・再分配 ・情報管理 ・診療材料・医薬品の管理と供給システム										

第4回	<p>テーマ：看護サービスのマネジメント③：人材育成管理 担当：隅田由加里</p> <p>主な授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材を育成するための政策 ・看護師の人材育成管理 ・看護専門職としてのキャリア（ジェネラリストとスペシャリスト） ・看護専門職に求められる自己管理のスキル ・チームの一員である看護専門職に求められる連携・協働のスキル（リーダーシップ、メンバーシップ、フォロアーシップ） ・健康的な人材を育む組織環境（人間関係、労働安全衛生、ワーク・ライフ・バランス）
第5回	<p>テーマ：看護サービスのマネジメント④：経営と経済の理解 担当：隅田由加里</p> <p>主な授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療保険制度 ・診療報酬と加算 ・入院基本料と医療・看護必要度 ・看護と経営の関係性 ・看護師が実践するカネのマネジメント
第6回	<p>テーマ：医療・看護の質保証①：医療の安全 担当：隅田由加里</p> <p>主な授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の権利と医療の安全 ・ヒューマンエラーとは何か ・医療安全管理体制と医療安全管理体制における看護師の存在意義 ・医療事故発生のメカニズム：ヒューマンエラーを引き起こす人間の特性と事故の構造
第7回	<p>テーマ：医療・看護の質保証②：安全文化の醸成 担当：隅田由加里</p> <p>主な授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インシデントアクシデントレポートの分析と活用 ・医療事故対策と安全文化の醸成 ・危険予知トレーニング（KYT）の実践 ・暴力・ハラスメントへの対策
第8回	<p>テーマ：医療・看護の質評価と改善 担当：隅田由加里</p>

	<p>主な授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療の質とは何かを考えてみよう ・サービスの質評価方法（クリニカルインディケータ、ドナペディアンの法則） ・医療・看護の標準化（標準看護計画、クリニカルパス） ・根拠に基づく実践（EBP：Evidence Based Practice）
テキスト	<p>「ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理」（メディカ出版） 「ナースング・グラフィカ 看護の統合の実践② 医療安全」（メディカ出版）</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①（医学書院） ・系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践②（医学書院） ・井部俊子 中西睦子著：看護管理学習テキスト 第1巻～第8巻、別巻（日本看護協会出版会） ・P.F.ドラッカー著 上田惇生編訳：[エッセンシャル版] マネジメント 基本と原則（ダイヤモンド社） ・岩崎夏海著：もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら（ダイヤモンド社） ・河野龍太郎：医療におけるヒューマンエラー「なぜ間違えるどう防ぐ」（医学書院） ・東京慈恵会医科大学附属病院 看護部・医療安全管理部編著：Team STEPPS を活用したヒューマンエラー防止策 SBAR を中心とした医療安全のコミュニケーションツール（日本看護協会出版会） ・芳賀茂：失敗のメカニズム 忘れ物から巨大事務まで（角川ソフィア文庫） ・石井遼介：心理的安全性のつくりかた（日本能率協会マネジメントセンター）
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートのフィードバックは、授業内もしくは Google クラブルームを活用して、その概要や記載例を説明する。 ・試験のフィードバックは成績発表後に Google クラブルームを活用して説明する
学生へのメッセージ・コメント	<p>まずは基礎看護学実習Ⅱでの看護の光景を想起してみましょう。例えば日々医療現場で行われている手指消毒方法の徹底統一はだれがいつどのように行っていると思いますか。手指消毒剤やサージカルマスクをはじめとする個人防護具が常に不足しないようにするためには、どのようなしくみが存在しているのでしょうか。重篤な患者に使用する人工呼吸器等の専門的器材をどの看護師でも安全に使用し管理できるようにするためには、どのような教育を誰が企画し実践しているのでしょうか。このような事案のルールやシステムの構築（枠組み）が行われて、はじめて円滑に迅速に必要な看護が必要な患者に提供できます。この枠組みを構築するのがマネジメントであり、マネジメントなくして質の高い医療・看護の効果的・効率的・継続的な提供はありません。</p> <p>さらに皆さんが今までに行ってきた様々なチーム活動（クラブ活動や生徒会活動等）の経験を振り返ってみましょう。きっと、達成したい目標を掲げ、その目標を達成するために計画を立て、ヒトやモノ、情報を活用し、時間管理を行い、それらをチームメンバーと共有してきたのではないのでしょうか。またよりよい人間関係を構築するために、様々な工夫や配慮を行ってきたことと思います。このようなチームで目標を達成していくための活動は、まさに「マネジメント」です。皆さんはすでに「マネジメント」を実践しています。さらに質の高いマネジメントが実践できるようになるために、様々なマネジメントの技法やスキルをこの授業で学んでいきましょう。</p>

